

	取組市町名	松山市	所属	学校教育課
▽取組事例名	子どもから広がる「いじめ0ミーティング」		▽取組期間	平成18年度～ (継続中)

▽取組概要

松山市では、社会問題となっている「いじめ問題」について対応するため、平成18年度から「いじめ対策総合推進事業」のなかで、「子どもから広がるいじめ0ミーティング」として、当事者である小中学校の児童会・生徒会代表者が集まり、自発的に知恵を出し合い、自校の実践につなげるなど、松山市全体としていじめ防止・解消に取り組んでいる。

▽取組みの背景

全国でいじめが原因で子ども自らが命を絶つといった悲しい事故が起き、いじめが社会問題化し、国の教育再生会議や中央教育審議会においてもいじめ問題が重要な論点となっていた。松山市では平成16年度から教育支援センターを開設し、いじめに対する相談体制を強化するなど、国の動向を待つことなく平成18年度から「いじめ対策総合推進事業」を立ち上げ、「子どもから広がるいじめ0ミーティング」をはじめ、「いのちを守る相談活動」、「いじめ問題対策・サポート事業」、「いじめ問題を考える学習会」など様々な取り組みを行ってきた。

平成25年度からは、「小中学生によるいじめ対策CM作成事業」や「学校からの相談等に応じる弁護士確保」の新たな事業を加え、6事業を推進している。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

いじめの未然防止のための取組みとして、子どもたち自身が学校や学級で何ができるかを考え、実践していくことが大切であることから、子どもたちが主体的に活動できる体制を作り上げることに主眼を置いている。

(主な具体的内容)

- ・ 1回目となる「いじめ0ミーティング」は、現在、7月に2泊3日の宿泊型「未来を拓け！松山こどもリーダーズ事業」※と連携して開催され、小中学校の児童会、生徒会代表者が、いじめ問題を解決するための本音トークを行い、各学校に戻って児童会・生徒会が中心となって、2学期から取り組むべき具体的な行動を、「いじめをなくす4つの提言」として、全小中学校に発信する。
- ・ 2回目は12月に開催し、7月のミーティングで決定した「4つの提言」をもとに、各学校のいじめ等の実態や児童会・生徒会の取組みについて情報交換し、さらに効果的な活動につなげるための話し合いを行う。

※「未来を拓け！松山こどもリーダーズ事業」とは

- ・ 小中学校の児童会・生徒会代表者が集まり、協力して課題を解決したりスポーツや野外活動に取り組むことで、リーダーに望まれる資質や能力を育て次代の松山を担う気概と自覚を持つことを目的に実施する。(7月23日～25日(2泊3日)に中島で実施)

▽取り組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

いじめ対策を総合的に進めるなか社会は激変を続け、大人社会においてもパワーハラスメントやセクシュアルハラスメントなどの社会問題が起きており、子どもが接するメディアやインターネットを含め、他人の弱みを笑いものにしたり、暴力を肯定していると受け取られるような行為を容認したり、異質な他者を差別したりといった振る舞いが、子どもに影響を与えていることも考えられる。

子どものなかで携帯電話が普及し、SNSを使った新たないじめの問題が発生しており、事業に柔軟性を持たせながら新たな取り組みをしていくとともに、松山市、学校、地域住民、家庭その他の関係機関の連携の下、進めていくことが不可欠である。

また、連携している宿泊型「こどもリーダーズ」事業では、子どもたちの体調管理が難しく、厳重な熱中症対策等を行ってはいるが、夜間に病院に運んだり、本人の意に添わなくても自宅に帰さなければならぬケースも発生しており、そこで指導する立場にある者が、情に流されず適切な判断を下すことが求められている。

☆工夫した点

本事業の運営及び児童生徒の指導は、学校の先生方、特に初任者が行っており、基本的に教育委員会は裏方で先生方を支援することに徹しており、学校行事の運営経験が少ない初任者にとっては、今後学校で集団宿泊的な行事を実践する際の貴重な経験となり、児童生徒にとっても年齢が近く相談しやすいというメリットがある。

また、宿泊型「こどもリーダーズ事業」と連携することで、共同生活やスポーツ、野外活動等を通じた児童生徒同士の親しい関係を構築できており、より深い話し合いが行われている。

▽取り組みの効果

松山市全体の問題として、自校のいじめ防止対策の取組を話し合ったり、市全体で行ういじめ防止のためのアイデアを出し合うなど、その後、学校生活でのいじめ解決に向けた意欲的な活動につながる事ができている。

具体的に提案のあった「小中学生によるいじめ対策CM作成事業」は、いじめ根絶に向けた取組として、いじめの防止や撲滅の機運を高めるために、子どもたちの手作りによるCM（ショートビデオ）づくりを推奨するとともに、コンテストを実施して優秀作品を表彰した。

また、いじめをなくすための合言葉「さかせよう笑顔の花 つみとろういじめの芽」の横断幕を作成し、市内全小中学校に配布し、体育館等に掲示している。

さらに、学校現場における教員のいじめの問題に対する対応力は確実に上がっており、未然防止、早期発見、早期解決を図ろうとするケースが増えている。併せて、保護者を通じた啓発活動により、市民への周知も徐々に広がりを見せている。

▽住民（職員）の反応・評価

参加者のほとんどが、「参加してよかった」、「いじめをなくそうとする気持ちが一層強くなった」という感想を寄せており、その後の学校生活でいじめ解決に対して意欲的に活動している。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

本事業の取り組みを、全小中学校の家庭に配布される「松山の教育」に毎年掲載し、いじめ問題に対する意識を学校、家庭、地域に広く発信するとともに、毎年実施しているいじめの認知件数や解消率の推移等を捉えながら、いじめ問題に対応した他事業との連携を図っている。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

参加する児童生徒には、いじめ問題に対する話し合いを深めさせるとともに、将来のリーダーとして必要とされる資質や能力を育て、次代の松山や日本を担う気概と自覚を持つよう意識付けており、社会環境やニーズにも柔軟に対応しながら根気強く継続させることが、犠牲者を出さないことにつながると思う。

現在の運営スタッフは教育委員会及び初任者の指導教諭が中心となっているが、今後は、初任者の減少も視野に入れつつ、地域との連携をより深めていくなど、継続実施を可能とする実施体制づくりが重要である。